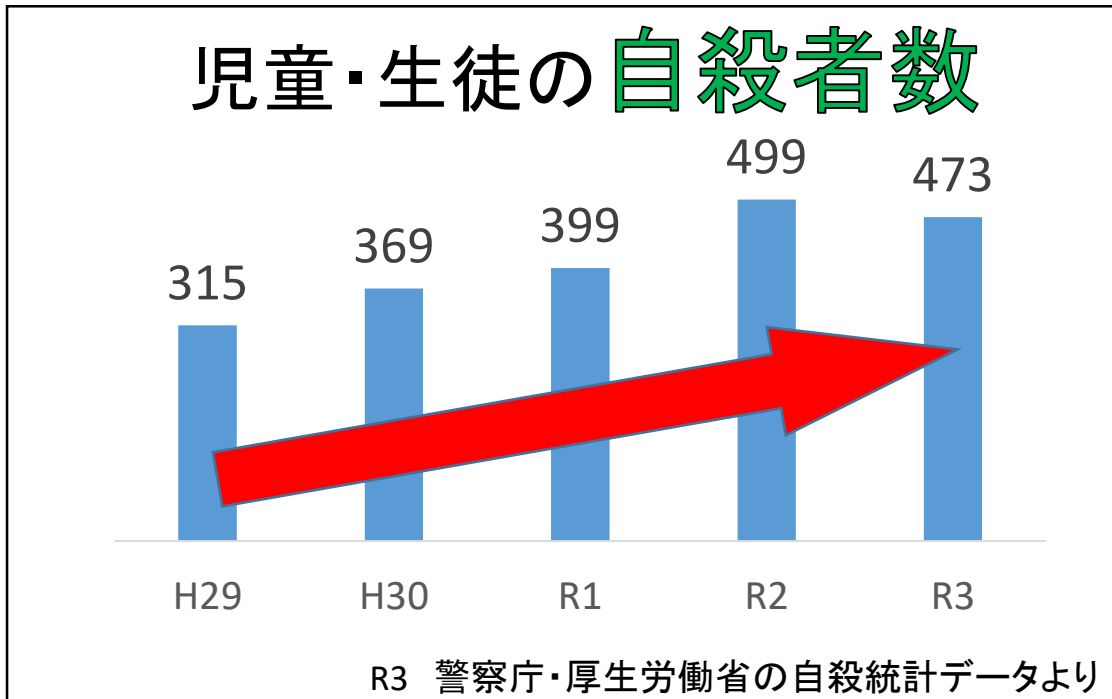


様々な課題を抱える児童・生徒への対応強化について

1 提案の背景

長期化するコロナ禍で...



ヤングケアラー

小6	6.5%	15人に1人	1学級に 約2人
中2	5.7%	17人に1人	
高2 (全)	4.1%	24人に1人	

R4.3公表 厚生労働省調査より

子どもたちが抱える課題

→ 顕在化、より一層複雑化・深刻化

待ったなし!

2 現状

心の内面や家庭環境などの課題は、**表面化しにくい**

SOSを出せる子どもたち

SOSを出せない子どもたち

専門人材
(スクールカウンセラー・
スクールソーシャルワーカー)
による

積極的なアプローチが
不可欠

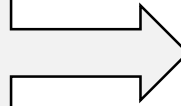


3 課題

公立学校1校当たり { スクールカウンセラー 概ね月1日!
 スクールソーシャルワーカー 概ね2月に1日!

①

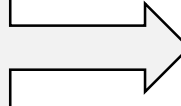
面談はSOSを出せる子どもたちの
予約で一杯



児童・生徒や保護者の
すべてのニーズに対応できない

②

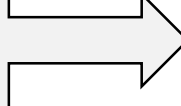
重篤なケースへの対応に追われる



予防教育やスクリーニング等の
積極的な取組ができない

③

問題の解決には、児童・生徒や保護者
との信頼関係の構築が必要



限られた勤務日数では
信頼関係が構築できない

課題を解決するためには、

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの常勤職員としての配置が必要
 常勤配置されるまでの間、非常勤配置に対する国の更なる財政的な支援が不可欠

4 提案内容

- 1 スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについて、すべての学校に常勤職員として配置できるよう措置すること。
- 2 常勤職員としての配置が措置されるまでの間、非常勤職員の配置に対する国の財政的な支援を拡充すること。